

Vol. 3 空き家の入居者 伊与木 浩介 さん

入居者プロフィール

氏名(年齢)	伊与木 浩介さん(45)	出身地	高知県幡多郡大正町
同居の家族	妻・知子さん、娘・円花ちゃん、ネコのクロ		
職業	豊田森林組合下山支所作業員		
座右の銘(移住前)	Tune in, Turn out, Drop out. (ティモシー・リアリー)		
座右の銘(移住後)	最も素晴らしい日は今日です。(マザー・テレサ) Stay hungry, Stay foolish. (スティーブ・ジョブズ)		
趣味(移住前)	旅行、音楽鑑賞	趣味(移住後)	読書、音楽鑑賞
よく読む本	スペクテイター、ワイアード		
よく見るサイト	もりのいえのブログ、サローネデルモンテのHP、バンビーノ・バンビーナのブログ		



伊与木浩介さんは、豊田市空き家情報バンクが運用を開始してすぐに利用者登録し、豊田市へ移住した空き家情報バンクの先駆者です。豊田森林組合への転職をきっかけに家族で移住することを決め、今では地域に溶け込んで暮らしています。仕事、子育て、地域活動のことなど、移住後の生活について詳しくお話を聞いてきました。

―移住のきっかけは何ですか？また、空き家バンクについてどうやって知ったのですか？

「先に豊田森林組合への転職が決まって、その後家を探し始めました。家を探していたときに旭地区の人と話す機会があって、もうすぐ豊田市で空き家情報バンクができると教えてもらいました。旭地区がすごく盛り上がっていて、地域の受け入れ体制も整っていると聞いたのですごく興味を持ちました。利用者登録後は、登録されている空き家をほとんど全部見に行きました。」

(次ページへつづく)

—各地のいろいろな空き家をご覧になった上で、この空き家を選んだ決め手は何でしたか？

「既に転職が決まっていたので、早く入居できる場所を探していました。他の空き家とも迷っていましたが、最後の決め手は、家賃と、こども園や小学校が近いことでした。また、地域面談の日程がすぐに決まり、地域の受け入れ体制が整っていたことも選んだ理由の一つです。空き家情報バンクができてすぐの頃は、受け入れ地域も慣れない部分があったと思いますが、この地域では早く入居を決めることができました。同じ地域の28戸のうち、半分くらいは別のところから移り住んだ方々がいるので、移住者を受け入れることに対して他の地区より抵抗が無かったのかもしれない。」

—入居の申込み後、地域面談があることについては、どう思いましたか？

「地域面談は是非やりたいと思っていました。この地域にはこういう人たちが住んでいるんだなあと、顔が見れて安心しました。地域面談はやるべきだと思います。」

—移住後、地域活動には参加していますか？

「はい。月1回集会があって、みんなで地域のことをいろいろと話します。また、お役(草刈りやお祭りのお手伝いなど)に出て顔を覚えてもらいました。近所には、面倒見のいい方や同年代の移住者もいて、一緒に草刈りをやったり、餅つきをしたりして交流しています。」

—空き家情報バンクでは子育て世代の移住希望者も多いですが、子育て環境はいかがですか？

「やっぱり、自然の中で子育てができることはいいですね。都会とは違って、田舎では地域の人たちが子どもたちを見てくれるので安心できます。私は、子どものためにも良いと思って移住を決めました。子どもがいなかったら移住をしていなかったかもしれません。」

—お子さんの学校はいかがですか？

「少人数の学校ですが、子どもたちはみんな仲が良く、遊ぶときはみんなで遊びます。1年生から6年生まで生徒のことはもちろん、生徒の親まで知っています。都会では、少人数の学校では競争心が育たないと聞きますが、そんなことは全く感じません。学芸会では、途中で帰ったりせず、自分の子ども以外の発表を見て、親同士で話したりするんですよ。」

—移住して不便だと感じたことはないですか。

「不便だと感じたことは全くありません。移住すると決めたとき、親からはなぜ転職して移住するのかと言われてきましたが、充実した生活を送っている今の姿を見て、理解してくれたと思います。」

—移住してからご自身に変化はありましたか？

「ここでの生活を始めてから、都会での生活が自分にとって想像以上にストレスだったと感じました。ここでは、朝はウグイスの鳴き声で目が覚め、夜は星空がきれいだったり、月の光は本が読めるほど明るくてきれいだったり、いつも自然に囲まれています。通勤途中もその季節ごとの風景を楽しみ、仕事自体も山の中です。緑のないところで長く暮らしていたので、こちらへ来てあらためて自然の良さに気づきました。」

—これからやってみたいことはありますか？

「移住してからは、まず仕事や生活に慣れることでいっぱいでしたが、今は少し時間ができたので、休耕田を利用して何かを作りたいと思っています。初めてなので、近所の方々に教えてもらいながらやろうと思っています。やっぱり、あたたかい地域の人たちに恵まれたことは、本当にありがたいですね。」

<取材者コメント>

伊与木さんは豊田市空き家情報バンクができてすぐに利用登録し、移住した方です。自分たちだけでなく、これから移住してくる方々も地域に受け入れてもらえるように、道筋を作りたいとおっしゃっていました。地域の方々だけでなく、既に移住した方々も新しい移住者を歓迎しています。